



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第93回「OECD(経済協力開発機構) 経済見通し 2025年12月」

12月2日にOECD(経済協力開発機構)より、経済見通し2025年12月が発表されました。
今週はこの経済見通しについてお伝えします。

～OECD 経済見通し2025年12月～

裏面表1をご覧ください。今回の見通しでは初めて2027年の予測も発表されました。詳細を見てみましょう。まず、世界の成長率ですが、2025年が3.2%(前回比:変わらず)、2026年は2.9(同:変わらず)、2027年は3.1%と予測されています。主要国の政策金利の引き下げやAI関連への投資拡大、米国と他国との関税合意、積極的な財政政策などが支えとなり、25年、26年の成長率予測は据え置かれました。ただ、米国の関税引き上げの影響はこれから顕在化すると予想されるため、26年の成長率は若干低下すると予測しています。その後、関税の影響が薄れ、政策金利の低位安定やインフレの低下などで経済は緩やかに伸び率を高め、27年には3.1%の成長を予測しています。

ただ、これらの見通しに対するリスクとしては、不確実な貿易ルールの継続や、ノンバンク金融の拡大、暗号資産の乱高下によって高まる金融市場の混乱などが挙げられます。これらのリスク要因については慎重に見極めなければいけない状況となっています。

次に主要国・地域の成長率予測を見てみましょう。米国の成長率は25年が2.0%(前回比: +0.2%)、26年が1.7%(同: +0.2%)、27年が1.9%と予測しています。ユーロ圏の成長率は25年が1.3%(同: +0.1%)、26年が1.2%(同: +0.2%)、27年が1.4%と予測しています。日本の成長率については、25年が1.3%(同: +0.2%)、26年が0.9%(同: +0.4%)、27年が0.9%と予測しています。

一方、中国の成長率予測は、25年が5.0%(前回比: +0.1%)、26年が4.4%(同: 変わらず)、27年が4.3%となっています。インドの成長率予測については、2025年が6.7%(同: 変わらず)、26年が6.2%(同: 変わらず)、27年が6.4%、ブラジルの成長率予測は25年が2.4%(同: +0.1%)、26年が1.7%(同: 変わらず)、27年が2.2%と予測しています。

先進国(米国、EU諸国、日本)と新興国(中国、インド、ブラジル)の予測を比較すると、今回の見通しでは先進国の方が前回よりも上昇修正される国や修正幅が大きくなっています。これは、米国の関税政策の悪影響が総じて先進国に及びやすいとの想定でしたが、関税率が当初想定より低下したことや各国の金融・財政政策による経済へのプラス効果を勘案したことによると考えます。

～来年の株式市場動向を考える～

今回のOECDの見通しから考える2026年の株式市場動向（世界）は、春先までは米国の中間選挙を控えていることもあり堅調な動きとなりますが、その後、米国の関税政策の悪影響による経済成長率の鈍化が意識され調整色の強い動きが予想されます。しかし、秋口以降には2027年の緩やかな成長率拡大への期待から堅調な動きに転換していくと考えます。

表1

					(単位:%)
OECD 経済見通し 2025年12月					
	2024年	2025年(予測)	2026年(予測)	2027年(予測)	
世界	3.3	3.2(0.0)	2.9(0.0)	3.1	
米国	2.8	2.0(0.2)	1.7(0.2)	1.9	
ユーロ圏	0.8	1.3(0.1)	1.2(0.2)	1.4	
日本	0.1	1.3(0.2)	0.9(0.4)	0.9	
中国	5.0	5.0(0.1)	4.4(0.0)	4.3	
インド	6.5	6.7(0.0)	6.2(0.0)	6.4	
ブラジル	3.4	2.4(0.1)	1.7(0.0)	2.2	

(注)インドについては財政年度ベース(4月～翌年3月)で表示

カッコ内は前回(2025年9月)からの改定幅(%ポイント)

OECD(経済協力開発機構)経済見通し、2025年12月]より抜粋、西村証券作成